

倉田矩正医師インタビュー

～地域医療の特長と課題～

今回、倉田先生の退任に伴い、文字どおり地域医療の最前線で活躍されたなかで、感じられたことや思っていることなどについて、お伺いさせていただきました。
その内容について、ご紹介させていただきます。

● 地域のかかりつけ医

まず「かかりつけ医をもって病院を紹介してもらう」ということは非常に有利なこと、この町での診療所という方式は都会に住んでいる人たちよりはるかに有利だと思います。

診療所がかかりつけ医になって、各領域の専門医ではない総合内科医のような診療医がいて、そこにかかりつけ医としてかかり、そこからいろいろな病院へ紹介してもらうという医者へのかかり方をしっかりとしてもらうのが一番です。

そういったやり方なら、町に居る人よりもよっぽど薬に色々な病気をコントロールできるようになります。例えば「私は〇〇で総合病院にかかっているから大丈夫」という人が、診察を受けていた箇所とは別の臓器が悪くなってしまう、最悪亡くなってしまうようなケースがあります。

それは「総合病院にかかっているから大丈夫だ」と思った人が他の病気のコントロールができていなかった場合「損をしちゃっている」ということになります。

総合病院にかかっても、必ずこういった「かかりつけ医」に戻っ

てくること、そうして全身をちゃんと診てもらい、必要に応じて専門医に紹介してもらうということが一番です。総合病院の専門医というのは決して全身を診てくれるわけではなく、本来診ようと思っ

ていてもそれだけの余裕がなかったり、病院の中のシステムとしてできなかつたりというようなことがあるからです。

● 専門病院と診療所

都会の専門医師の場合、「私は消化器内科専門」としておけばその症状の患者さんがやってきますから、それを診察していけばそれだけでやっていけるわけです。

しかも、夜になればその診療所は閉めてしまうので、昼に診た患者さんが夜になって容体が変わったとしても救急で別の病院にかかることになり、その診療所はそのことに責任を負わなくてもよくなるわけです。

ここではそうではなく、「昼に診た人の容体が変わってしまった。どうしようか」ということになつたら1時間もかけて病院に行かなくてはいけない。その間大丈

夫か」ということもしっかりと考えなくてはなりません。そこが地域の診療所と都会で専門の診療科をうたっている診療所の違うところ

です。

都会で昼間だけ診察をして専門医と称されていればそれですむわけですから、テレビが何かで「こんな症状なら専門医に」といったようなものを見て診察に来た患者さんがいたとしても、別の原因ならばそうではないと他の医師のところへ行ってもらうだけで済みま

す。しかし、地域の診療所ではそれらを全て判別しなければいけません。

● 地域医療の今

今、地域医療はどんどん壊れてきています。私よりも先輩の地域で頑張ってきた人たちが辞めてきているのです。これは、ジェネリック医薬品による影響が大きいと思

っています。ジェネリックは元の薬と同じ成

分を含んでいればよいということです。成分以外の混合成分である「夾雑物」についてはきびしくチェックされていません、それによ

って「飲んでみたらちよつと何か違う」というような思わぬ症状が出ている人が見られます。薬剤師は国から「一定以上はジェネリックを使いなさい」という指示が出ているので使用せざるをえま

せん。ジェネリックも最近では名前がある程度統一されてきてはいますが、元となった薬に対して色々な会社が色々な名前を出しています。それを薬局から患者さんに使

用していくので、当初の処方箋とは違う名前や会社の薬が出ていくことがあり、それによって予期せ

ぬ結果が出たりするのですが、「この処方箋でそんな名前の薬が出ているの?」というように、医師が把握しきれないことがあります。

新しい名前の薬や合剤（異なる薬効を持った成分を一つの薬の中に配合した医薬品）などもたくさん出てくるし、その「新しい薬同士を合わせて使ったらどうなるのか」といったことも考えて処方しなければならなくなっているわけ

で、ジェネリックの新薬がたぐさん出てくる現在では、とても対応しきれるものではなくなってしまう

これも専門医の場合は、自分の専門分野の薬だけでいいということになります。こういった地域の診療所では循環器、呼吸器、消化器、整形外科や精神科まで、ありとあらゆる薬を処方します。そう

なつてくるともう対応がしきれなくなつてくるわけです。

● 医療システムの課題

毎年の健康診断については、普段からの診療で色々な検査を受け

ている人たちも対象として、何度も同じような検査を受けるようなシステムになっていきます。

そういったところを改善すれば経費を削っていけるわけなのに、逆のことをしているのが現状で、「この人がまた検診に行ったの? この前にも同じことやってるじゃないの」という例は何度も見えました。そういった国のシステムは改善していかないとけないと思います。

● 最後に

この町にはいい環境が作り上げられていますので、住んでいる人たちにはいい生活をして、「この町に住んでいて良かったな」と思えるような一生を過ごしてほしいと思います。

